

第2章 第2期計画に向けての現状と課題

1 社会保障の視点でみた小浜市の特徴

(1) 社会保障全体像

社会保障の視点でみた小浜市の特徴は14ページ表7のとおりです。

小浜市の高齢化率・75歳以上の割合は、ともに全国、福井県と比較しても高く、高齢者の健康保持増進、健康寿命の延伸は重要課題です。

死亡の状況に全国的な差異はなく、64歳以下の早世死亡割合は低い状況にあります。また、医療にかかる費用額は低いものの、介護認定率、介護にかかる費用額は高い状況にあります。

(2) 小浜市国民健康保険加入者の推移

各年3月31日現在の国民健康保険加入者は減少傾向で推移しており、平成24年には国民健康保険加入者は7,977人、加入率は25.3%となっています。特に、40歳未満の加入率が減少傾向にあります。

図9 人口、国民健康保険被保険者数、国民健康保険加入割合の推移

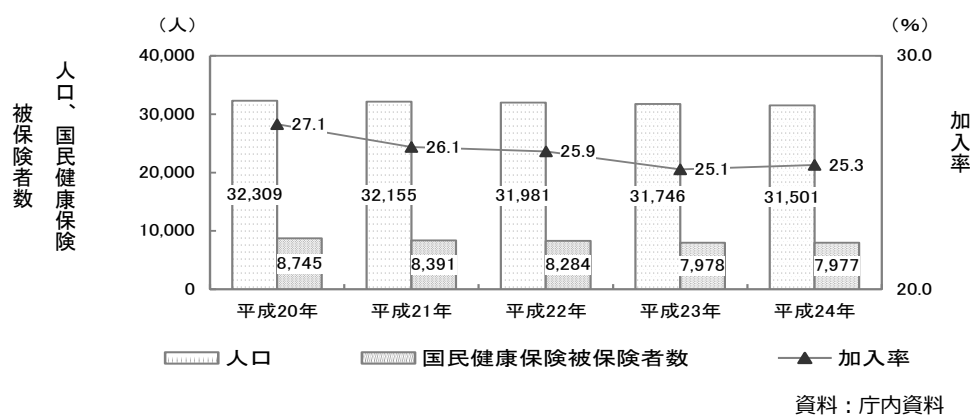


図10 小浜市国民健康保険被保険者年齢別割合の推移

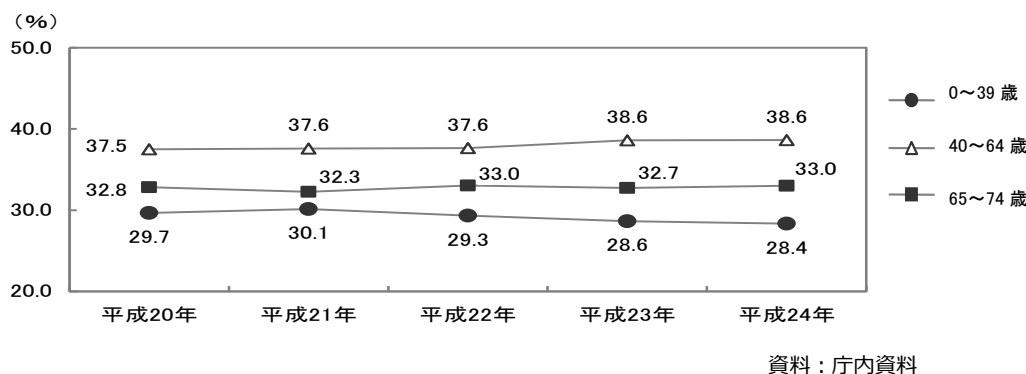


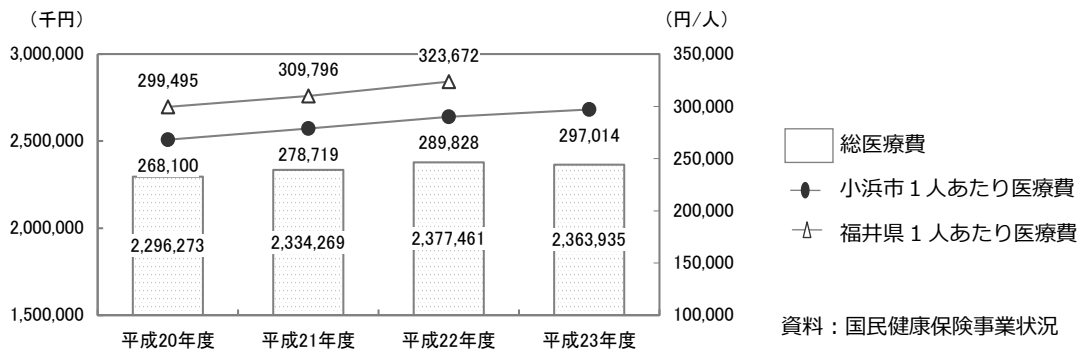
表7 医療保険者の特徴 A3で 入れる

(3) 小浜市国民健康保険医療費の状況

①医療費の推移

国民健康保険被保険者の1人あたり医療費は、福井県平均に比べて低い水準となっているものの増加傾向で推移しており、平成23年度では総医療費23億6,393万5千円、1人あたりでは29万7,014円となっています。

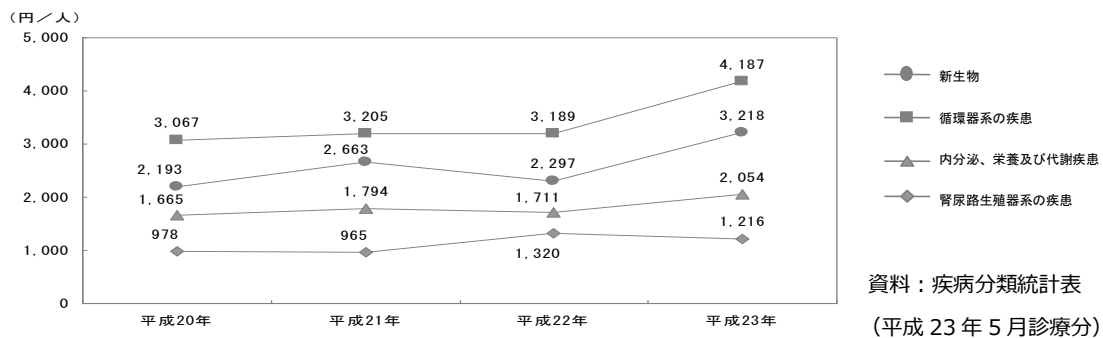
図1-1 国民健康保険被保険者の総医療費、1人あたり医療費の推移



②生活習慣病に関する医療費

生活習慣病に関連する疾病について、被保険者1人あたりの医療費の推移をみると、新生物、糖尿病を含めた内分泌、栄養及び代謝疾患、循環器系の疾患、腎不全を含む腎尿路生殖器系の疾患とともに増加傾向となっています。特に、循環器系の疾患は平成23年5月の1人あたりの医療費は4,187円/人と他の疾病に比べ高く、平成20年から約1.4倍と大きく伸びています。

図1-2 生活習慣病に関連する疾病大分類別の被保険者1人あたりの医療費の推移



特定健康診査・特定保健指導は生活習慣病の医療費抑制を目指すものですが、第1期ではその効果を医療費の推移等で見ることにはできませんでした。高齢化に向い、医療費総額の抑制は困難な状況にありますが、生活習慣病における費用額の伸び率を抑制していくことを目指します。

疾病全体に占める生活習慣病の件数および医療費の占有率をみると、年齢が上がるにつれて増加しています。50歳以上では、件数占有率が約3割から4割、医療費占有率が約6割となっており、生活習慣病の増加が顕著になっています。

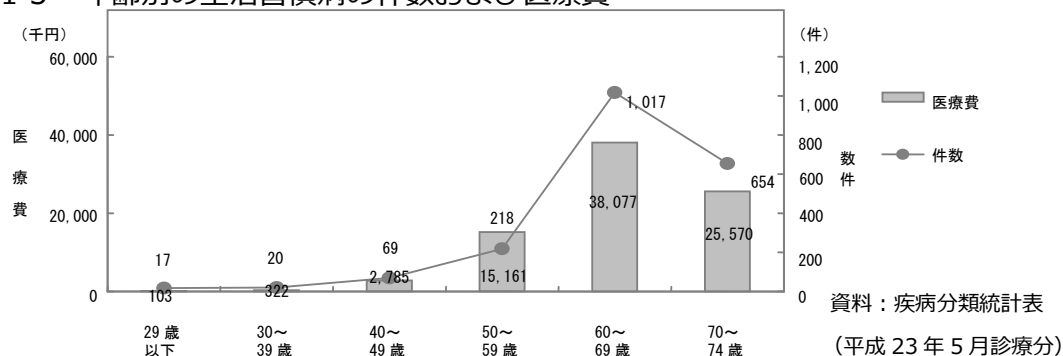
表8 生活習慣病の医療費等の状況

区分	被保険者数 (人)	件数			医療費		
		疾病全体 (件)	生活習慣病 (件)	件数占有率 (%)	疾病全体 (円)	生活習慣病 (円)	医療費占有率 (%)
29歳以下	1,573	712	17	2.4	9,695,960	102,690	1.1
30～39歳	633	269	20	7.4	4,729,670	322,240	6.8
40～49歳	716	377	69	18.3	10,769,510	2,785,480	25.9
50～59歳	1,030	648	218	33.6	24,821,870	15,160,840	61.1
60～69歳	2,670	2,357	1,017	43.1	67,183,030	38,076,910	56.7
70～74歳	1,258	1,403	654	46.6	41,675,880	25,569,860	61.4
計	7,880	5,766	1,995	34.6	158,875,920	82,018,020	51.6

資料：疾病分類統計表（平成23年5月診療分）

- ※ 件数占有率：全体のレセプト件数に対する生活習慣病の件数の割合
- ※ 医療費占有率：全体の費用額に占める生活習慣病の金額の割合
- ※ 生活習慣病とは新生物、循環器系疾患、糖尿病、その他内分泌系、腎不全を対象としています。

図13 年齢別の生活習慣病の件数および医療費



60歳代に、医療が必要な状態に悪化している者が多くなっていることがわかります。生活習慣病にかかる医療費が上昇する年齢より若い年齢のうちから、定期的な健診受診による健康管理が重要です。